



(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、支援学校小学部第6学年 <大阪府（公立）実施校数・児童数 972校 69,338人>
 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、支援学校中学部第3学年 <大阪府（公立）実施校数・生徒数 468校 65,582人>

(3) 調査内容

- ① 教科に関する調査
 - ・小学校等【国語、算数】
 - ・中学校等【国語、数学】
 - ※英語（中学校等）、理科（小中学校）は3年に一度程度の実施のため実施せず
 - ② 質問調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）
- 実施日 令和6年4月18日（木）

【今年度調査の特徴】

- ※教科に関する調査は、国語、算数・数学を実施
- ※児童生徒質問調査は、原則全ての児童生徒を対象に、オンライン方式により実施
- ※紙面で実施する調査の後日実施は、4月19日（金）から4月30日（火）まで実施

●今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

教科に関する調査結果

* 文部科学省は都道府県の平均正答率を整数値で公表しています。

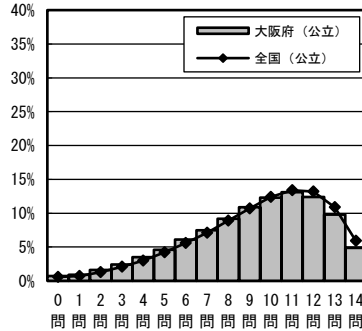
【小学校】

○ 国語

	平均正答数	平均正答率*	無解答率
大阪府	9.2問/14問	66%	4.3%
全国	9.5問/14問	67.7%	4.2%

学習指導要領の内容	平均正答率（%）		
	大阪府	全国	
知識及び技能	言葉の特徴や使いに関する事項	63.4	64.4
	情報の扱いに関する事項	85.5	86.9
	我が国の言語文化に関する事項	72.6	74.6
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	57.3	59.8
	書くこと	65.9	68.4
	読むこと	69.0	70.7

<正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）>



「情報の扱いに関する事項」では、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方について、概ね理解できている。一方、「話すこと・聞くこと」では、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。

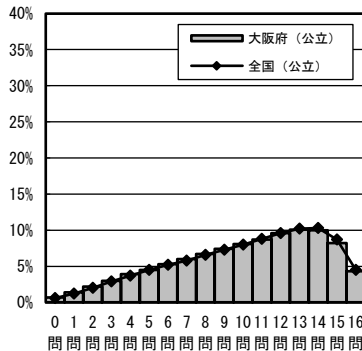
【これからの学習に向けたアドバイス】
 自分の考えを話す場面では、自分の考えが伝わるように、相手を意識し、資料を示しながら話すなど、表現を工夫してみましょう。

○ 算数

	平均正答数	平均正答率*	無解答率
大阪府	10.0問/16問	63%	3.4%
全国	10.1問/16問	63.4%	3.4%

学習指導要領の領域及び評価の観点	平均正答率（%）		
	大阪府	全国	
領域	数と計算	65.3	66.0
	図形	65.2	66.3
	変化と関係	50.9	51.7
	データの活用	60.9	61.8
評価の観点	知識・技能	71.9	72.8
	思考・判断・表現	50.5	51.4

<正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）>



「数と計算」の領域では、数量の関係の問題場面どおり、□などの記号を用いて式に表すことは概ねできている。一方、領域に関わらず、理由などを言葉や数、式を用いて記述することに課題がある。

【これからの学習に向けたアドバイス】
 図やグラフなどからわかったことや読み取ったことを数字や算数で学習した用語などを使って、短い文章でまとめてみましょう。

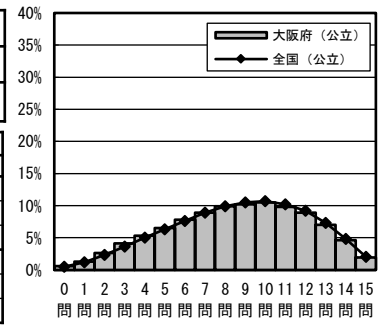
【中学校】

○ 国語

	平均正答数	平均正答率*	無解答率
大阪府	8.6問/15問	57%	4.2%
全国	8.7問/15問	58.1%	3.9%

学習指導要領の内容	平均正答率（%）		
	大阪府	全国	
知識及び技能	言葉の特徴や使いに関する事項	59.1	59.2
	情報の扱いに関する事項	59.4	59.6
	我が国の言語文化に関する事項	75.8	75.6
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	56.4	58.8
	書くこと	63.3	65.3
	読むこと	47.2	47.9

<正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）>



「知識及び技能」については、すべての事項について概ね全国並みの平均正答率となっている。一方、「読むこと」では、文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がある。

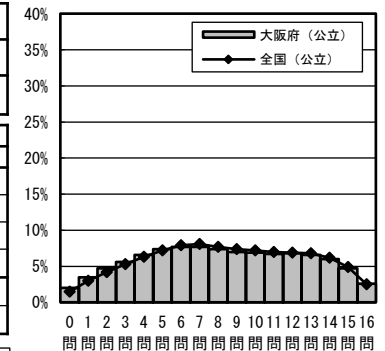
【これからの学習に向けたアドバイス】
 図表などを含む文章を読むときは、示されている図表などが文章のどの部分と関連しているのかを確認し、筆者が図表などを用いた意図を考えてみましょう。

○ 数学

	平均正答数	平均正答率*	無解答率
大阪府	8.2問/16問	51%	12.6%
全国	8.4問/16問	52.5%	11.3%

学習指導要領の領域及び評価の観点	平均正答率（%）		
	大阪府	全国	
領域	数と式	50.4	51.1
	図形	40.5	40.3
	関数	58.9	60.7
	データの活用	53.3	55.5
評価の観点	知識・技能	61.9	63.1
	思考・判断・表現	28.2	29.3

<正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）>



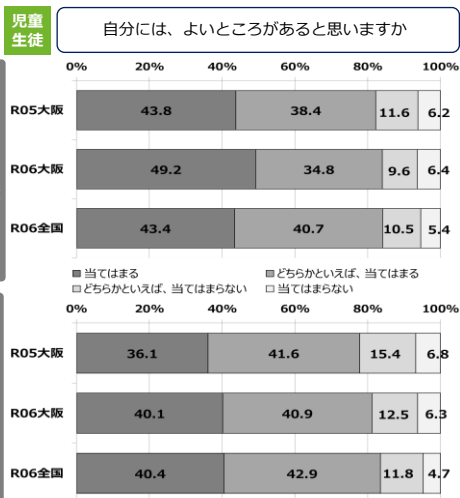
「関数」の領域では、グラフにおける交点やグラフの傾きの意味を事象に即して解釈することは概ねできている。一方、データ分布の傾向を比較して読み取ることや課題がある。また、領域に関わらず、理由や問題解決の方法を記述することにも課題がある。

【これからの学習に向けたアドバイス】
 データを分析するときは、平均値や中央値などのデータの特徴を把握しましょう。また、そこからわかったことを数学的な表現を使って、文章でまとめてみましょう。



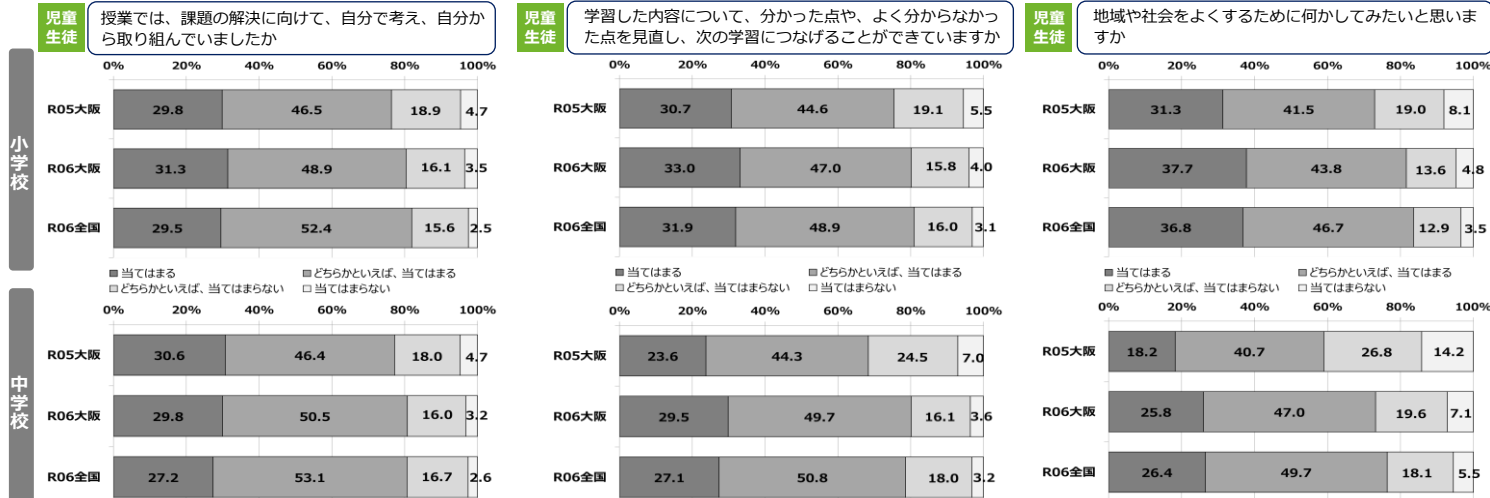
質問調査結果

子どもたちの自己肯定感



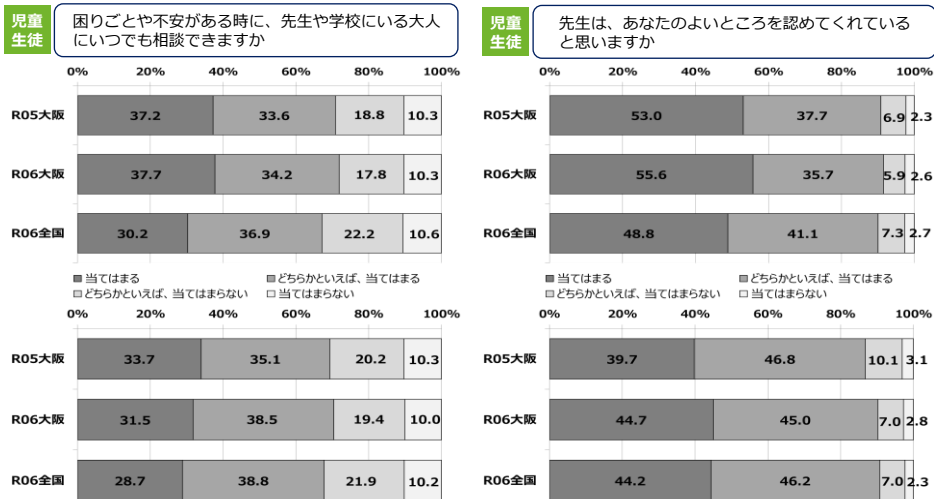
自分には、よいところがあると肯定的に回答した子どもの割合(※)は、小中学校ともに増加している。

学びに向かう力（知識・技能、思考力・判断力・表現力とともに子どもたちに育むべき力）



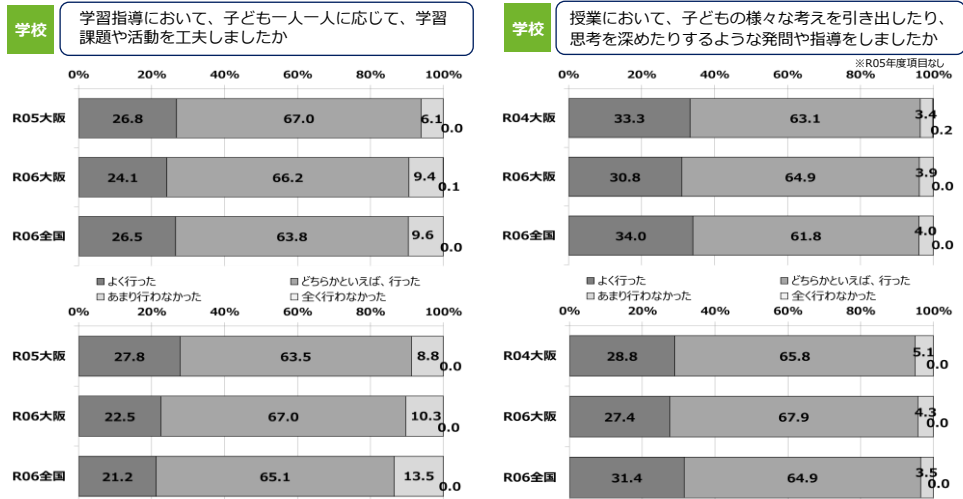
問題発見・解決能力に関する項目や、子ども自身の学習改善に関する項目について、肯定的に回答した子どもの割合(※)は、小中学校ともに増加している。また、地域や社会をよくするために何かをしてみたい、と思っている子どもの割合も、小中学校ともに増加している。

子どもと教職員との関わり



困ったときにはいつでも相談できる大人が学校にいたり、教員から自分のよいところが認められていると肯定的に回答した子どもの割合(※)は、小中学校ともに増加している。

学習指導のより一層の充実



一人ひとりに応じた学習課題や活動の工夫、子どもの思考を深めるための発問や指導の工夫を「よく行った」と強い肯定で回答した学校の割合が、小中学校ともに減少している。思考力、判断力、表現力を伸ばすための授業改善が必要。

※「肯定的に回答した子どもの割合」とは、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した子どもの割合の合計を表します。